

2026 年度大学入学共通テスト 解説〈地理総合〉

第 1 問

解答

問 1	101	④
問 2	102	⑤
問 3	103	②
問 4	104	③

## 解説

## 問 1

正解は④。

北アフリカのモロッコ内陸部でみられる伝統的な生活文化に関する写真についての文章の正誤を判定する。

④は不適当。ナツメヤシの実はデーツと呼ばれ、非常に糖分が多く栄養価が高い。食料事情の厳しい砂漠周辺では、乾燥させて保存食ともなるデーツは重要な自給的作物である。むろん、一部は輸出されるが、ほとんどが食用であり工業用ではない。

①は適当。日干しレンガはアドベと呼ばれる。粘土に水とわらを混ぜて型抜きし天日干しする伝統的な建材である。

②は適当。最大の目的は直射日光や熱風を避けて遮熱することだが、他に砂の侵入防止、建物構造の強度の維持、イスラームの教義に関連した家族のプライバシー保護などの目的も考えられる。

③は適当。北アフリカではフォガラと呼ばれる地下水路による灌漑などでオアシス農業が行われている。

## 問 2

正解は⑤。

西アジア周辺の 3 地点における水の利用に関する説明文を判別して組み合わせる。

アはトルコに水源を持つティグリス・ユーフラテス川流域の都市であり、該当する文は C。外来河川とは、湿潤地域を水源として砂漠を貫流する河川のことで、両河川はその好例である。

イは西アジア最大の産油国サウジアラビアの沿岸都市で、該当する文は A。原油輸出による潤沢な資金により、海水の淡水化プラントや、室内農場などの建設が進められている。

ウはテンシャン山脈などから河川の流れ込むタリム盆地の都市で、該当する文は B。アやイと違い、標高の高い高山には氷河が存在し、降雪もみられる。テンシャン山脈は古期造山帯に属するが、インド半島がユーラシア大陸に衝突した際のエネルギーで再隆起した復活山脈である。また、内陸河川とは、海に流れ込まずに大陸の内部で消滅するか、内陸湖に注ぎ込む河川のことで、B 付近にもタリム川などがある。

## 問 3

正解は②。

資料の雨温図や生活文化の説明に該当する南アメリカ大陸上の地点を選択する。問題文の 1 行目に「緯度や標高の違い」とあり、高山気候を連想させるヒントになっている。リャマやアルパカの毛による織物を利用した貫頭衣であるポンチョも想起してほしい。

②はボリビアの首都ラパス付近。アンデス山脈中のアルティプラノと呼ばれる高原上にあり、標高 3600m を超える地点である。よって、比較的 low 緯度で気温の年較差は小さいのに、平均気温はきわめて低い（ケッペンの気候区分ではツンドラ ET または高山 H）。また、山脈に囲まれた内陸盆地であるため水蒸気が届かず降水量は多くない。アンデスの標高区分のうち 3500～4000m の範囲は「スニ」とよばれるが、厳しい環境の中でジャガイモの栽培が盛んである。ジャガイモはアンデスを原産とし、低温に強く、やせた土地でも育つ。アンデスの先住民インディオは、夜間に凍らせたジャガイモを昼間に足で踏んで脱水し、チューニョという保存食にする。また、農耕ができない標高 4000m 以上の「プナ」では、ラクダ科の家畜でおもに毛を利用するアルパカや、荷役用のリャマが飼育される。

①はコロンビアの首都ボゴタ付近。ラパス同様に高山地帯に位置する（標高 2500m 付近）が、北半球であるため最寒月は 7 月頃にならない。

③はチリ北部のアタカマ砂漠付近。寒流の影響で乾燥する海岸砂漠であり、降水量はきわめて少ない（ほぼゼロ）。

④はアルゼンチン南部のパタゴニア付近。アンデス山脈を越える偏西風の風下に形成される雨陰砂漠であり、年間降水量は 250mm を下回る。

#### 問 4

正解は③。

アジア周辺の家畜の分布図を判別し、文章の空欄補充する語句の選択と組み合わせる。2 問続けて高級な毛織物に関連した出題となった。

羊の図は y。羊は、牛よりも乾燥に強く、アジア周辺では西アジア、中央アジア、モンゴル、中国内陸（新疆ウイグル自治区・内モンゴル自治区）などで飼育される。

牛の図は x。インドではヒンドゥー教における神聖な動物として愛護されており、牛の屠殺はタブーとなっている。また特に水牛は耕作や荷役に使われる役畜として重要である。

空欄 E に当てはまる語句はカ。モンゴルでは、高級毛織物の原料となる毛（カシミア）を採取できるカシミアヤギの飼育がさかんで、需要の高まりに応じた飼育頭数の増加が顕著である。

キは不適。飼育頭数の増加は草地の過剰な利用によって砂漠化を促してしまうので、抑制に向けた対策に逆行する。

第 2 問

解答

問 1	105	②
問 2	106	②
問 3	107	④
問 4	108	②

## 解説

## 問 1

正解は②。

地図中の 3 市における農地や農作物に関する資料について、3 種類の農産品の統計を判別し、組み合わせる。判読内容こそ基本レベルだが、形式が面倒な組合せ式になっており注意が必要である。

米はア。資料 1 中の岩木川の下流域とは、河口の十三湖が位置する五所川原市である。低湿地帯という条件や写真の判読から、水田における米作りが農業の中心となっていることがわかる。

野菜はウ。津軽平野の海岸付近とは、直線的な砂浜海岸を持つつがる市である。水はけの良い砂丘という条件や写真の判読から、造成農地における野菜生産がさかんであることがわかる。

果実はイ。山麓とは、図 1 の a にて標高の高いことを示す濃い色がつけられた南西部（岩木山や白神山地を示す）に近い弘前市である。水はけや日当たりの良い山麓の傾斜地という条件や写真およびキャプションから、果実の中でもリンゴ生産に特化した地域であることがわかる。

## 問 2

正解は②。

津軽平野における灌漑用のため池を示した地図に関して、説明文中の空欄を補充する語句を選んで組み合わせる。図の東半のため池の周囲は等高線が密だが、西側の破線のある水田付近には等高線がほとんどない。

カは「谷口を堰き止めて」。図中のため池は、東側では標高の低い方から高い方へ複雑に入り組んだ等高線に沿った形状を持ち、西側では道路に沿った直線的な人工構造物で区切られている。これは、谷の出口を堰堤で堰き止めて造成された「谷池」と呼ばれるタイプのため池である。

キは「浸水までの時間」。もし、「浸水深」であれば、凡例の等値線は単純に等高線に沿った形状になるはずだが、そうっておらず、ため池の堰堤側からの距離によって同心円状に描かれている。

## 問 3

正解は④。

十三湖におけるシジミ漁に関する資料をもとに、説明文の正誤を判定し、誤りを選ぶ。正解肢の選択の根拠は資料の内容とは関連しておらず、単純に選べてしまう。

誤りは④。「地理的表示保護（GI）制度」発祥のヨーロッパでは、GI 制度の 1 つである PDO（原産地呼称保護）によってシャンパーニュ（発泡性ワイン）やパルミジャーノ・レッジャーノ（チーズ）など、高級な飲食物の名称が保護されている。日本でも 2014 年に法整備が行われ、夕張メロン、特産松阪牛、越前がになどが登録されている。この制度は、その土地ならではの気候・風土・歴史が育んだ品質や評価を持つ産品を、地域の知的財産として登録・保護するものである。行政が模倣品

を不正競争として取り締まることで、生産者を価格競争から守り、ブランド価値を維持・向上させる仕組みである。よって、「低価格での販売」は目的ではない。

①は正しい。汽水は河口付近や潟湖、湾内などにみられる。

②は正しい。空中写真の範囲では終戦直後の食糧増産政策に伴い大規模な干拓事業が行われ、半円形の堤防に囲まれた区域が陸地化した。1955 年の空中写真から、この堤防を「自然に形成された砂州」と誤解するかもしれないが、1948 年からわずか 7 年という短期間で自然に形成されたとは考えにくく、人為的な構造物であることは明らか。

③は正しい。小さいシジミは「ジョレン」の大きな網の目をくぐり抜けてしまうので、その漁獲は抑制される。こうして乱獲による資源減少を防いでいるのである。

## 問 4

正解は②。

日本のリンゴ輸出先に関する統計表、台湾のリンゴ輸入先に関するグラフをもとに、会話文の空欄を補充する語句や記号を選んで組み合わせる。シについては、日本におけるリンゴの旬を考えてみるとよい。

サは増加。会話内容から、そもそも 2008～2010 年の輸出量に比べ、2018～2020 年の輸出量が 1.4 倍になっていることがわかる。さらに東南アジア諸国で比べると、2008～2010 年ではタイとインドネシア合わせて 1.8%で、その他も全て東南アジア諸国だとしても 2.9%にしかならないが、2018～2020 年では、タイだけで 3%である（ベトナム、シンガポールを加えると 4.8%）。総量も割合も高まっているから、輸出量は明らか増えている

シは B。図 2 では、輸入量の季節変動においてアメリカ合衆国と凡例 B が類似しており、A は他 2 国と異なる。このことから A は南半球のチリ、B はアメリカ合衆国と同じ北半球の日本とわかる。リンゴの旬（収穫のピーク時期）は冬である。

第 3 問

解答

問 1	109	①
問 2	110	①
問 3	111	③
問 4	112	⑥

## 解説

## 問 1

正解は①。

日本各地の夏と冬における降水量・風速の上位観測地点の分布図から、夏の風速に該当するものを選択する。気候の季節変動について、気団の分布や季節風の影響など基本的な理解が欠かせないが、問題文にある「海からの距離」や「地形」も重要な考察ポイントにしたい。

夏は A、冬は B。夏は小笠原気団からの南東季節風、冬はシベリア気団からの北西季節風がそれぞれ太平洋側、日本海側に降水をもたらす。上位の観測地点がそのどちら側に多いかで判断できる。

降水量はイ、風速はア。上記の季節風が降水をもたらすのは、海上を渡って水蒸気を含んだ風が列島の脊梁山脈にぶつかって上昇気流となって雨雲（雪雲）をつくるからである。よって、降水量の上位観測地点はそれぞれの風上側の沿岸部に偏るが、雨や雪を落とした後の風は内陸や山脈の風下側にも吹き下ろすので上位観測地点も分散する。

以上から夏の風速は①となる。

## 問 2

正解は①。

日本の 3 河川の勾配を表す縦断面図と、河川の侵食・運搬・堆積作用についての説明文を対応付けて組み合わせる。急勾配で流速が早ければ侵食作用が強まり、平坦で緩やかな流れになれば堆積作用が強まる。図の印象にあてはまる説明文を素直に選べるだろう。

D はカ。D は、約 50 k m の短い距離で 1600 m も流下する全体的に急勾配の河川である。その流速の速さから、区間全体で侵食作用が卓越する。

E はキ。E は源流から 150 k m ほどまでは急勾配だが、そこから河口までは平坦である。よって、上流から中流では侵食作用が、中流から河口までは堆積作用が卓越する。

F はク。F は中流域に平坦な区間があるが、その前後は勾配が強い。よって、上流の山間部で侵食作用、中流で堆積作用が卓越するが、その後ふたたび勾配の大きな区間で侵食作用が高まる。

## 問 3

正解は③。

日本の特徴的な地形を示した 4 つの地形図（地理院地図）に関する説明文の中から、シ図に該当する文を選択する。さまざまな地形を学習するとき、文字情報だけでなく、地形図や写真、イラストなども利用して地形の特徴をイメージしておきたい。

シは③。シ図に多くみられる地図記号は、周囲より低くなっている凹地（内向きにケバのある閉曲線）や小凹地（矢印のついた閉曲線）である。これらの凹地は地表に溜まった雨水（二酸化炭



素の溶け込みで弱い酸性を示す) が地下に浸透して石灰岩を溶食して形成されたもので、ドリーネや、ドリーネが連結したウバーレなどのカルスト地形である。

サは④。最終氷期に山岳氷河に覆われていた標高の高い山岳地帯では、氷河の流動で斜面が椀状にえぐられてできるカールなどの氷食地形が残っている。

スは①。図の中央を流れる河川が山地を下方に侵食して形成された、断面が V 字形の V 字谷である。なお、氷食地形では氷河の侵食によって U 字谷となる。

セは②。等高線の間隔が広いのは傾斜の小さい斜面であることを示しており、その緩斜面に小さな水面、湿地、荒れ地、針葉樹などの地図記号が散見される。

#### 問 4

正解は⑥。

日本のある地域における避難施設と、洪水または高潮の発生時の浸水想定区域を示した図、および避難施設の浸水の有無を GIS で分析した図をもとに、洪水に該当する図と分析図の条件をそれぞれ選択して組み合わせる。内容は平易だが、問題構成が複雑で手間がかかる。

洪水はチ。洪水は河川、高潮は海が発生源となる水害である。洪水は、集中豪雨や長雨などで増水した河川が氾濫して家屋や農地などが浸水するなどの被害が生ずる。高潮は、台風の接近時などに気圧による吸い上げや強風による吹き寄せで海面が上昇し、海沿いの陸地が海水に浸かる災害である。チの図では河川沿いを中心に内陸まで浸水想定区域が広がっているが、タの図の浸水想定区域は海岸線から続く低地に限られ、内陸部までは及んでいない。

条件は c。鉄道の北側にある 2 つの避難施設の一方は、高潮の浸水想定区域外だが洪水では浸水するので×になっている。逆に、海岸線に最も近い避難施設のうち 106m の標高点の東にある 2 つの施設は、洪水の浸水想定区域外であるが高潮では浸水するので×になっている。結局、高潮でも洪水でも浸水想定区域外となっている施設だけが○である。

第 4 問

解答

問 1	113	⑥
問 2	114	①
問 3	115	①
問 4	116	⑤

## 解説

## 問 1

正解は⑥。

3 か国の 1 人当たりエネルギー供給量、および二酸化炭素排出量の相関と水位を示すグラフにおいて、グラフと国名の対応付けを組み合わせる。各国の経済水準や近年の動向のほか、エネルギー政策のあり方なども考慮したい。

アメリカ合衆国はウ。まず、アメリカ合衆国は二酸化炭素の総排出量が中国について 2 番目に多い国であり、1 人当たりの数値でもサウジアラビアなどに続く上位国であることは知っておきたい。その要因は、世界最大の経済活動を支える旺盛なエネルギー消費であり、グラフのどちらの指標でも上位に当たる。一方、この間にアメリカ経済の中心は、製造業からエネルギー消費の小さいサービス業・金融業や情報関連産業中心にシフトしており、エネルギー効率の向上もみられるため、エネルギー供給量は抑えられ、結果として二酸化炭素排出量も低減した。(2021 年は新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響で経済活動が低迷した年であったことも影響している)。

韓国はイ。韓国はこの期間に先進国の仲間入りを果たし、アジア通貨危機による打撃も ICT 産業のブームによって乗り越え、大きく経済成長を果たした。しかも鉄鋼・造船・石油化学などのエネルギー大量消費型の産業が国の機関産業となっている。そのためエネルギー供給量は大きく増加し、これに伴って二酸化炭素排出量も増大した。

フランスはア。フランスの産業構造はアメリカ合衆国以上に脱工業化が進んでおり、製造業は中国などにアウトソーシング（外注化）する一方、国内では観光や金融などのサービス業が中心となっている。また、アメリカ合衆国との比較では生活スタイルもコンパクトで、エネルギー消費が小さい。

## 問 2

正解は①。

アメリカ合衆国本土における近年の平均降水量の変化を示した統計地図(階級区分図)をもとに、説明文の正誤を判定し、適当でない文を選択する。凡例で 100 より大きければ増加、100 未満であれば減少と読み替える。つまり、色の濃い地域ほど降水量が増加している。

①は不適當。アメリカ合衆国の国土は、中央を走る西経 100 度線によって東西に分けられるが、この線が年降水量 500mm の等値線と重なっており、西側が乾燥地域、東側が湿潤地域である。すると、西側の乾燥地域ほど凡例の色が薄く、降水量が減少傾向であることがわかる。

②は適當。カはカリフォルニア州のセントラルヴァレー付近であり、地中海性気候のもとでグレープフルーツなどの柑橘類やぶどうなどの果樹栽培、近郊農業としての野菜栽培が灌漑によって行われている。灌漑用水は山地から流れる河川水の送水や地下水の汲み上げなどによるが、環境保全のための水の利用規制が進んでおり、ICT を利用した効率的な灌漑に切り替えられている。

③は適当。キはアイオワ州などのコーンベルト（とうもろこし地帯）であり、とうもろこしや大豆を飼料作物に、豚や鶏などを飼育する混合農業地帯となっている。

④は適当。メキシコ湾に來襲する熱帯低気圧はハリケーンと呼ばれる。

### 問 3

正解は①。

インドネシアのジャカルタの写真をもとに、2つの説明文の正誤をそれぞれ判定し、組み合わせる。いわゆるプライメートシティ（首位都市）として都市圏人口が爆発的に増加し、産業や経済の機能が一極集中するジャカルタには多くの都市問題が生じており、その解消のために、カリマンタン島のヌサンタラへの首都移転が進められている。

x は正。発展途上国のスラム（不良住宅街）の居住環境は劣悪で、トイレや下水道の未整備や、生活排水の垂れ流しなどから、安全な水へのアクセスが困難になっている。スラムの人々は業者からポリタンク入りの水を高額で購入せざるを得なくなっているが、それらの業者などによる地下水の汲み上げは地盤沈下を引き起こし、慢性的な洪水の発生を招いている。洪水は生活圏に汚水を流入させて、衛生環境をさらに悪化させている。

y は正。写真で示されているのは、深刻な渋滞対策として開始されたバス高速輸送システムである。道路中央の専用レーンを物理的に隔離し、渋滞に左右されない定時運行を実現した。運賃が安く、低所得層の重要な移動手段となっている。このような公共交通機関の優先は、自家用車利用を抑制し、渋滞の解消や大気汚染の緩和につながると期待されたが十分な成果は上がっていない。

### 問 4

正解は⑤。

海外における日系企業の拠点数や日本の NGO 団体数、および日本の ODA 供与額を示した3つの統計地図（図形表現図）を判別して、その対応付けを組み合わせる。どんな目的のための活動・支援なのかを考える。

海外における日系企業の拠点数は G。企業は、かつて貿易摩擦解消のために欧米諸国に進出した。その後、安価な労働力を活用するためにアジア諸国に進出し、いずれの場合も円高による差損などの為替リスクへの対応や、現地のニーズを把握して市場を拡大することなども狙いとなっている。

海外における日本の NGO 団体数は E。海外で活動する NGO（非政府組織）の多くは、発展途上国における環境破壊や貧困問題への対応や、医療・保健・教育・水・食料生産などの人道援助・開発支援に取り組んでいる。よって、それらのニーズの多い中南アフリカや南アジアなどが対象となりやすい。しかし、文化・芸術・人的交流や政策提言などを目的とする場合、欧米先進国も対象となりうる。

日本の ODA 供与額は F。ODA（政府開発援助）は、単なる「慈善事業」ではなく、日本の安全と繁栄に直結する国々への投資という性格を強めている。そのため、アフリカの最貧国などよりも、戦略的な意味合いの強いインド太平洋地域や、資源確保の面で重要な西・中央アジアに集中する。特にインドや ASEAN 諸国への巨額支援は、中国の「一帯一路」への対抗を意識した外交手段となっている。